

2026 年 3 月 19 日

パナソニック オートモーティブシステムズの In-Vehicle Infotainment が トヨタ自動車株式会社の新型「RAV4」に採用

パナソニック オートモーティブシステムズ株式会社（代表取締役社長：永易正史、本社：神奈川県横浜市）の In-Vehicle Infotainment（以下 IVI）が、トヨタ自動車株式会社（以下、トヨタ）の新型「RAV4」（2026 年 2 月北米向けから順次発売）に採用されました。本製品は、日本を除く北米・欧州を含む 170 か国以上に展開予定です。



RAV4（写真提供：トヨタ）



車内イメージ（写真提供：トヨタ）



IVI 外観

本製品は、SDV 化を支える次世代 IVI プラットフォームです。SDV 化に不可欠な OTA（Over The Air）アップデートを可能にする新開発の IVI ソフトウェアを搭載し、マルチメディアだけでなく ADAS の機能アップデートにも対応しています。さらに、車両連携や音声認識強化などの先進 UX と ADAS 連携による録画機能で快適性と安全性を向上。加えて、最大 12.9 インチの大型・高精細ディスプレイと一体型設計により、操作性とデザイン性を両立しています。本製品の開発にあたり、当社はトヨタで初めて採用されたソフトウェアプラットフォーム「Arene」と連携する IVI ソフトウェア開発のため、大規模な開発体制を構築しました。トヨタとのパートナーシップを強化しながら、共同開発を行っています。これにより、トヨタの車両 SDV 化に向けた次世代車両のソフトウェア基盤構築に貢献しています。

【製品の特長】

1. 新開発の IVI ソフトウェアで SDV 化に向けた多様なアップデートが可能に

新開発の IVI ソフトウェアは、RAV4 に初採用されたソフトウェアプラットフォーム「Arene」と連携し、その機能を引き出します。これにより、本製品は SDV 化に欠かせない OTA アップデートのハブとして機能し、マルチメディアだけでなく、IVI と連携する ADAS のアップデートも可能になります。

2. 先進 UX と ADAS 連携で快適性・安全性を強化

本製品は、Apple Wireless CarPlay や Android Auto Wireless によるスマートフォン連携、デジタルラジオ※や Bluetooth オーディオ対応、スマートフォンやクラウドとの連携を活かした音声 UI やユーザー認証などの従来機能を継承しながら、さらなる進化を遂げています。カスタマイズ可能なホーム画面によるパーソナライズ機能に加え、エアコン操作などの車両連携やクラウドナビ、さらに音声認識の応答速度と理解精度を高め、快適性を向上しています。さらに、ADAS との連携によるカメラ録画機能で安全性も強化しています。

※HD Radio、SXM、DAB

3. 大型・高精細ディスプレイと一体型設計による商品力向上

最大 12.9 インチ※の大型高精細ディスプレイを採用し、ナビゲーション・エアコン操作などを一体化。液晶ボンディング技術や省スペース設計により、見栄え性と操作性を両立。高品質なデザインと軽量化・省電力化を実現しています。



※オプションとして 12.9 インチ & 10.5 インチが選択可能

パナソニック オートモーティブシステムズ株式会社について

パナソニック オートモーティブシステムズ株式会社は、日本を本社とし、海外 8 カ国に傘下子会社を有するグローバル企業です。Tier 1 として、国内外の自動車メーカーに、エン터테인먼트システムをはじめとするパナソニックならではの先進技術を提供し、快適で安心・安全なクルマづくりに貢献しています。企業ビジョンに、「移ごこちデザイン」カンパニーを掲げ、人に寄り添う技術で世界のお客様のご期待にお応えします。

なお当社は、2027 年 4 月 1 日より社名を「モビテラ株式会社」に変更いたします。

<https://automotive.panasonic.com/>

報道関係者様 お問い合わせ先

パナソニック オートモーティブシステムズ株式会社 経営企画センター コーポレートコミュニケーション室

e-mail: press-pas@ml.jp.panasonic.com Tel : 045-939-6103